

ぎふ感染症かわら版

平成 29 年 8 月 18 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

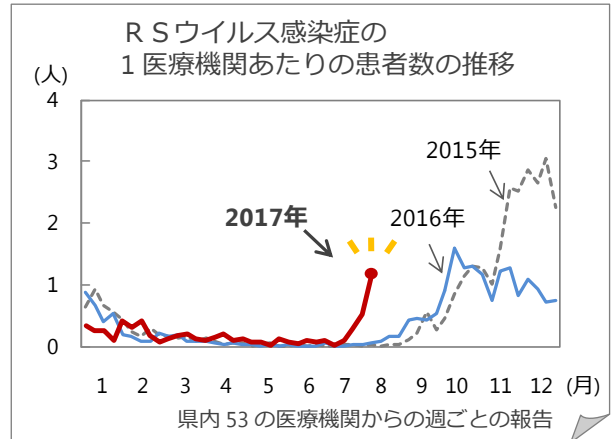


RSウイルス感染症に注意しましょう！

RSウイルス感染症は、赤ちゃんに注意が必要な感染症で、夏ごろから患者が増え始め、冬に流行します。今年も、例年より一月以上早く患者が急増し、8月上旬の時点で、すでに例年の10月並みの患者が報告されています。

どんな病気？

RSウイルスによる呼吸器の感染症です。2歳までに、ほとんどの人が一度は感染し、その後も何度も感染することがあります。



症状は、発熱や鼻水などの軽いかぜ症状から重い肺炎まで様々です。

はじめて感染した場合は重くなりやすいといわれており

特に**赤ちゃんでは細気管支炎や肺炎などの重い症状をおこしやすくなります。**

特に注意が必要な人

- ◆ 生後 6 カ月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ 慢性呼吸器疾患（ぜんそくなど）の基礎疾患をもつ高齢者



どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみなどによる**飛沫感染**や、手指などを介した**接触感染**により感染します。

特に家庭内で感染が広がりやすいため、赤ちゃんやぜんそくなどの持病をもつ高齢者のいる家庭では、次のことに心がけ、感染予防に努めましょう。

年長のお子さんや大人ではRSウイルスに感染しても軽い症状ですむことが多いため、気づかずに赤ちゃんにうつしてしまうことがあります。



- **石けんを使った手洗いや、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう**
- **かぜのような症状があるときは、できるだけ赤ちゃんや高齢者と身近に接することを控えましょう**
- **咳が出るときはマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう**



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

